



西中国随一の清流「錦川」

錦川は中国地方でも屈指の流域面積と清澄な水質を誇る大河です。流域は、豊かな自然に恵まれ、ブナの原生林や日本の滝百選に指定されている五竜の滝のある寂地峡など、数々の美しい自然を見せられます。下流域では、その名を全国に知られる錦帯橋や美しい竹林などが、錦川の清らかな流れと相まって、良好な景観を作り出しています。

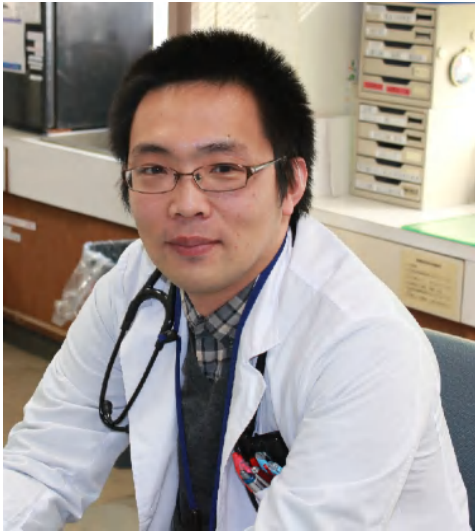
目 次

	ページ
I 地域医療の現場より	
～ 岩国市立美和病院 宗像 緩宜 さんに聞く ～	1
II 山口の今	
◇ 山口県地域医療支援センターが開設されました！	4
◇ 「長州総合医・家庭医養成プログラム」がスタート！	4
◇ 山口県で総合医を育てる“プロジェクトG”始動！	5
◇ 地域医療セミナー2012夏 in 岩国	6
◇ 県内3ヶ所で「高校生のための医療現場体験セミナー」開催！	7
III 県からのお知らせ	
◇ 「やまぐちドクターネット」を御覧ください！	8
◇ 山口県の医師確保施策の紹介	9
◇ 「山口県地域医療の風だより」の継続申込書	10

I 地域医療の現場より

岩国市立美和病院 宗像 緩宜 さん

第12回の「地域医療の現場より」は、平成24年秋から岩国市立美和病院に着任された宗像緩宜さんです。宗像先生の地域医療への思いや今後の抱負などについて伺いました。



プロフィール

むなかた ひろのり
宗像 緩宜 (32)

広島県出身

平成11年 広島城北高等学校卒業

平成20年 広島大学医学部卒業後、

沖縄浦添総合病院にて初期研修

平成22年 小倉記念病院心臓血管外科勤務

平成24年10月から現職

interview

【Q】宗像先生が医師を志した時期や理由などを教えてください。

【宗像】最初に医師という仕事を意識したのは、3歳の頃です。3歳ですから当然漠然としたものですが、祖父から医師という仕事のすばらしさを聞かされ、ぼんやりと憧れを抱いていました。祖父は、医師だったわけではないのですが、自らが被爆者で、医師になることを目指していたと聞かされました。戦中戦後の混乱の中で諦めてしまったようなのです。

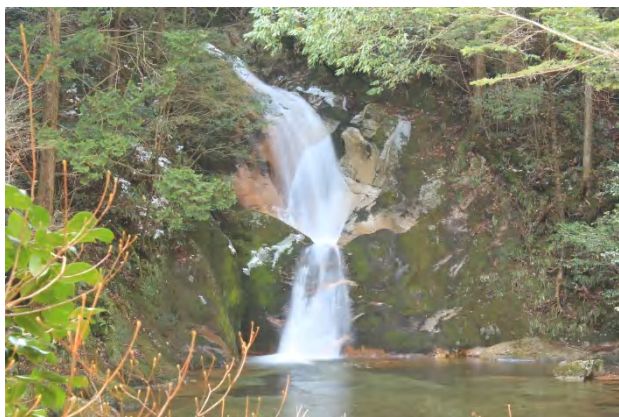
小さな頃は、このように祖父の影響で医師に憧れていましたが、中学、高校時代は、農学部への進学を考えるようになりました。実際、大学受験でも現役では、農学部を受験しましたが、幸か不幸か、この受験に失敗し、浪人生活の中で自分の本当にやりたいことを見つめなおし、再び医師を目指すようになり、医学部に進学しました。

【Q】一時期、心臓血管外科を目指され、現在は地域医療の道に進まれています、その経緯を教えてください。

【宗像】医学部時代、最初に進みたいと考えた診療科が心臓血管外科でした。3年次、授業の中で心臓手術のビデオを見る機会があり、そのビデオ映像に衝撃を受けました。心臓手術ではよく行われることですが、手術中に一旦心臓の動きを止め、施術が終了した後、再び心臓の鼓動が始まります。このダイナミックさに衝撃を受けて、心臓血管外科に進みたいという具体的な目標、モチベーションが生まれました。

一方で地域医療に興味を抱いたのは、初期臨床研修での地域医療実習がきっかけでした。その研修は、広島県の吉田総合病院での2週間のプログラムでした。研修の中で、たった1日ではありましたが、近隣のへき地診療所での実習がありまし

た。正直なところ、それほど目的意識を持ってへき地診療所での実習に臨んだわけではありませんが、その診療所の先生の患者さんとの関わり方に深い感銘を受け、地域医療に魅力を感じるようになりました。糖尿病が原因で二人とも目が見えない二人暮らしの高齢者夫婦の患者さんがおられたのですが、先生は、単に糖尿病の治療だけでなく、患者さんの生活全般に深く関わり、生活そのものを支える治療を行っておられました。また、在宅での看取りを希望される家族を支えられている姿も印象的でした。



(岩国市北部にある名勝「寂地峡」)

【Q】最初に心臓血管外科の道に進まれましたが、その理由とそこで感じられたことを教えてください。

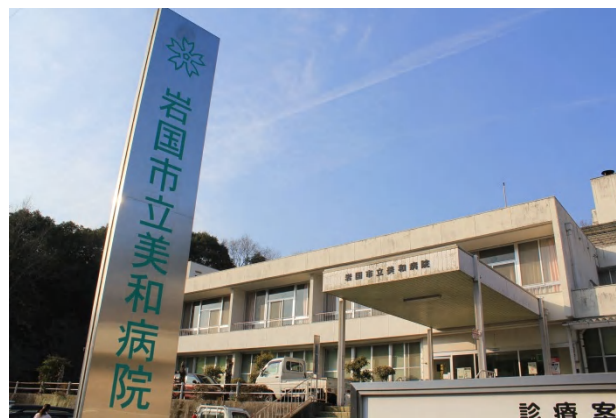
【宗像】心臓血管外科と地域医療の二つの道でかなり悩みましたが、超急性期の心臓血管外科の現場には、体力のある若い時にしか対応できないだろうと考え、まずは心臓血管外科の道に進むことに決めました。心臓血管外科の仕事は、大変厳しいものですが、自分が憧れを抱いたとおり大変やりがいのある充実した仕事でした。

しかし、次第に自分の中で違和感を抱くようになりました。超急性期である心臓血管外科の現場では、手術が終わってしまえば、術後の管理が全くないわけではありませんが、基本的には、患者さんとの関わりは極めて薄くなります。自分自身は、患者さんともう少し深い関わりを持ちながら診療にあたりたいとの思いがあり、同僚からは、よく「患者やその家族との距離が近すぎる。」と

の忠告を受けていました。患者との距離を縮めることは良いことだと分かっている、心臓血管外科の現場でそれを実践すると医師の身体がもたない、との親心からの忠告だったと思います。そのようなことがあり、自分が本当にやりたかったことは、個別の病気を治療するだけでなく、患者や家族の置かれた環境を踏まえ、トータルで患者を支え、また病気にならない予防にも取り組む、そんな診療スタイルが実践できる地域医療だと思えるようになりました。

【Q】それで地域医療の道に進まれたのですか。

【宗像】そうです。ただ、少し遠回りをしたようですが、心臓血管外科の現場で勤務したことは、今の自分にとってプラスであったと思います。心臓血管外科では、患者の回復を肌で感じる事が出来、やりがいもありましたし、そのような超急性期の現場を体験したからこそ、今の職場でも色々と見えてくることや感じる事があのだと思います。



(美和病院外観)

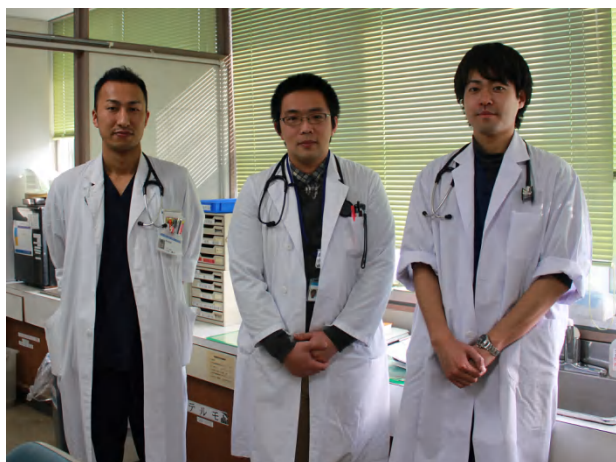
【Q】美和病院に着任されて感じられたことを教えてください。

【宗像】美和病院に着任して感じたことは、病院の内・外に関わらず、みんなの距離が近いということです。患者や家族はもちろんのこと、ここでは、患者の住んでいる地域の姿もよく見えてきます。また、医師や看護師、医療事務など病院の職員全体の一体感があります。

前の職場である小倉記念病院では、診療科の壁

が大きく、他の診療科の医師と話し合う機会などほとんどありませんでした。あるのは電子カルテ上のやりとりぐらいです。一方、美和病院では、医師同士はもちろん、他の職種も含め病院全体で患者さんの治療方針を頻繁に話し合っています。

美和病院のもう一つの大きな特徴は、往診に力を入れていることです。美和病院のカバーしている地域は、交通の便があまり良くなく、病院に来るのが困難な患者さんが多くおられます。また、住み慣れた家で最後を終えたい、在宅で看取られたいという人もおられます。正直なところ美和病院は、医師をはじめとして、看護師や理学療法士などマンパワーは慢性的に不足している状況ですが、その環境下で往診や訪問診療に積極的に取り組んでいるということは、すごいことだと思います。私自身は、まだ往診の機会はそれほど多くありませんが、少しずつ増やしていきたいと思っています。



(同僚の医師たちと、院長先生は往診中)

【Q】医師の仕事は厳しいと思いますが、診療していて楽しいと感じられるのはどんなことですか。

【宗像】患者さんが元気になり、笑顔で家に帰っていかれると自分も最高に幸せな気持ちになります。患者さんがハッピーになれば、自分もハッピーになれるのです。医師の宿命として、患者さんとのつらい別れがないわけではありませんが、このつらい別れを少しでも少なくしたいと思っ

ています。病院を離れても、美和地域の温かい人々と触れ合っていて、地域の中で暮らすことを妻ともども楽しんでいきます。

【Q】今後の抱負やこのような診療をしていきたいという思いをお聞かせください。

【宗像】地域医療の道に進んで間がありませんので、日々の診療や研修を通じて医師としての能力をもっと磨いていきたいと思っています。また、以前から興味があり、地域医療の道を志した理由の一つでもある予防医学を、この美和地域に浸透させていきたいと思っています。スタッフや予算に制限はあるのですが、自分なりに頑張っていきたいと考えています。

【Q】これから医療の仕事をしたいと思っている人や、医学生など若い読者へのメッセージをお願いします。

【宗像】個人の性格にもよりますが、私の経験からすると、少しでも興味のある分野があれば、まずは思い切って飛び込んでみるのが大切だと思います。いろいろと頭で考えてみても、実際に体験してみないとわからないことが多いものです。地域医療についても、外から眺めるのと、実際に体験するのでは大きな違いがありました。医学生のみなさんには、是非、学生のうちに地域医療を体験してみることをお勧めします。



(インタビュー後、往診に向かう宗像先生)

Ⅱ 山口の今

◆ 山口県地域医療支援センターが設置されました！ ◆ ◆ ◆ ◆

山口県では、医師確保対策の一層の充実を図るため、山口大学医学部附属病院と連携して、平成24年7月に「山口県地域医療支援センター」を設置しました。

センターは、県内の医師不足の状況等を把握・分析し、医師不足の公的医療機関等への医師配置と配置医師のキャリア形成支援を一体的に行うとともに、本県の医師確保に関する情報発信や相談対応等を行う、山口県の医師確保対策の総合窓口です。



(開所式で岡田副知事から丸本学長へ看板が手渡されました。)

◆ 「長州総合医・家庭医養成プログラム」がスタート！ ◆ ◆ ◆ ◆

山口県では、へき地をはじめとした多くの地域で医師が不足しており、地域住民に対する医療提供体制の確保が急務です。こうした地域では様々な住民のニーズに対応し、入院・外来診療から在宅医療や緩和ケア、保健・福祉との密接な連携などにも幅広く対応できる「総合医・家庭医」が望まれています。

現在、厚生労働省では「専門医のあり方に関する検討会」の報告を受け、「総合診療医」を内科や外科とならぶ19番目の専門領域として位置づけるよう検討が進められています。

山口県では、平成23年度に地域のニーズに対応するため「やまぐち総合医養成プロジェクト」を立ち上げ、山口県立総合医療センター（以下「県総C」）において、平成24年度から「長州総合医・家庭医養成プログラム」をスタートさせたところであり、早速、卒後5年目の医師がこのプログラムにエントリーしています。

このプログラムは、へき地医療拠点病院である県総Cと総合医・家庭医を学ぶのにふさわしい県内のへき地医療機関が連携し、3年間かけて「総

合医・家庭医」を養成するものです。修了後には、「家庭医療専門医（日本プライマリ・ケア連合学会）」及び「認定内科医（日本内科学会）」の取得が可能となります。

これらの資格の取得に必要なカリキュラム（地域6ヶ月、内科6ヶ月、小児科3ヶ月）は、県総Cを拠点に県内各地の医療機関と連携することで満たされますが、研修場所や研修期間は個別にアレンジが可能です。

へき地医療機関での研修中も週1日の研修日を確保し、基幹病院等で内視鏡や超音波などの各専門科の検査・治療手技も研修できます。外来診療の習得や地域医療で疑問に思ったことをテーマに臨床研究にも取り組むことも可能です。

また、米国の家庭医療で有名なオレゴン健康科学大学（OHSU）への短期研修（2週間前後）も可能です（※1）。

このプログラムは、3年間幅広く臨床を経験したのち、さらに専門性を追求したい方には、自分の目標に合わせた大学院進学や、各専門診療科への入局、また各自治体で地域医療を継続すること

も可能です。

将来、保健所等の医療行政職や家庭医として開業する場合にも、このプログラムでの幅広い臨床経験が役立ちます。

研修中の3年間は、県総Cへき地医療支援部が、研修内容の計画、各部門との調整、へき地勤務先での代診支援等を行います。

初期臨床研修を終え、さらに幅広く研修したい方、へき地医療を経験したい方、将来家庭医として開業を目指している方、行政医等を目指している方などは是非ともご検討ください。

※1「オレゴン健康科学大学への短期研修の紹介」

県総Cは、家庭医療で有名な米国オレゴン州のオレゴン健康科学大学（Oregon Health Science University：OHSU）の家庭医療学講座（Family Medicine）と交流を始めました。平成24年4月、同講座のScott Fields教授が当院にて講演されました。



（オレゴン健康科学大学で研修中の中安先生）

米国では、「家庭医療」がひとつの専門領域として認められており、OHSUでは毎年20名の家

庭医を養成しています。特に「へき地」で家庭医を育てる「Cascades East Rural Family Medicine Residency Program」は、OHSUの教員とへき地の家庭医、各科専門医が連携して、3年間の充実したプログラム、指導体制を構築しており、幅広い診療に対応できる家庭医を育てています。毎年8名の募集枠に全米から1,000名以上の研修医が応募します。プログラムを終了した卒業生は、へき地はもちろん都市部でも優れた家庭医として様々な分野で活躍しています。

当プログラムでは、希望すればOHSUの家庭医療学で2週間前後の短期研修が可能です。この短期研修では、大学病院はもちろん都市部やへき地の家庭医の診療（外来、入院）の様子が研修できます。また、大学のカンファレンスに出席したり、医学部の授業やOSCEなどを見学したりすることも可能です。

実際、当プログラムにエントリーした中安一夫医師は、平成25年1月OHSUで2週間の家庭医療研修を実施しました。



（Scott Field教授の講演会後の記念撮影（県総Cにて））

◆ 山口県で総合医を育てる“プロジェクトG”始動！ ◆ ◆ ◆ ◆

総合医（総合診療医、家庭医、プライマリ・ケア医などとも呼ばれます。）の社会的ニーズが高まっています。医学生や研修医等の若い世代では、総合医を志す人が増えていますが、山口県では総合医を育成する体制が十分に整っていないのが

現状です。

そこで、総合医に関係する団体等が協力して、「プロジェクトG」なるものを昨年度から開始しました。これは、主として、地域医療に従事する先生方に日本プライマリ・ケア連合学会（以下、

PC 連合学会) 認定医・指導医を取得してもらい、県内の総合医育成プログラムを充実させることを目的にしたものです。「G」は Generalist (ジェネラリスト) の G です。

県内の総合医の研修プログラムを整えることで、総合医を志す医師が県内で総合医としての研修を行うことができ、山口県の地域医療を担う人材の確保が期待されます。自治医科大学や山口大学(特に、山口県医師修学資金貸与者)等の卒業生が、県内で安心して総合医のトレーニングができることとなります。



(山口県総合保健会館で開催された合同研修会)

世話団体・人は、山口県地域医療支援センター、山口県立総合医療センターへき地医療支援部、山口大学医学部総合診療部松井邦彦教授、山口大学医学部地域医療推進学講座となっています。

具体的には、メーリングリストで認定医の試験関連情報などを交換したり、研修会を開催したりしています。現在、36人が登録しており、昨年9月に行われた認定医試験では、本プロジェクト登録者12名が受験し、全員が合格しました。

本プロジェクトは、PC 連合学会の認定医・指導医制度の移行期間である平成25年度中までの活動を予定していますが、その後も、総合医育成プログラム(例えば、PC 後期研修プログラム)を質と量ともに充実させ、総合医育成体制を整えていきたいと思っています。

「プロジェクトG」に参加されたい方は、山口大学医学部地域医療推進学講座(メールアドレス: tiiki@yamaguchi-u.ac.jp)までお知らせください。



(合同研修会後の記念撮影)

◆ 地域医療セミナー2012夏 in 岩国 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

清流の町「岩国」を舞台に山口大学と自治医科大学が共同開催!

「地域医療セミナー2012夏 in 岩国」が平成24年8月16日から18日までの3日間、岩国市を舞台に開催されました。

地域医療セミナーは、山口県立総合医療センターへき地医療支援部・山口県地域医療支援センター・山口大学医学部地域医療推進学講座・自治医科大学地域医療学センターが主催するもので、自治医科大学の学生と山口大学の学生の交流を深める場としてもすっかり定着してきました。

自治医科大学12名、山口大学10名が参加し、6つのグループに分かれ、離島の診療所やへき地医療拠点病院、保健センターなど岩国地区の様々な保健・医療機関での実習に取り組みました。

2日目の夜には指導医や岩国市・玖珂郡医師会関係者、行政関係者等との懇親会もあり、3日目の報告会では、ワークショップ形式により、岩国市の地域医療の課題とその解決策を考えました。3日間の研修を終え、最後に参加証を手渡された

学生達からは、一様に満足感・達成感が溢れていたのが印象的でした。



(柱島に上陸)



(訪問診療に同行)



(患者さんへのインタビュー)



(テレビの取材も受けました)

◆ 県内3ヶ所で「高校生のための医療現場体験セミナー」開催！ ◆

～平成25年度も開催予定～

平成24年度の「高校生のための医療現場体験セミナー」が、徳山中央病院、山口県立総合医療センター、萩市民病院の3会場で開催され、合計で52名の高校生が参加しました。

本セミナーは、平成24年7月に開設した山口県地域医療支援センターの事業として、山口大学医学部地域医療推進学講座との共催で開催されました。

セミナーの目的は、医師を目指す山口県内の高校生に実際に医療現場を見学・体験してもらい、医師との対話・交流を通じて「医師の仕事を理解し、医師になる意欲を育む」ことにあります。

当日は、医師や医学生の指導を受けながら採

血・縫合(シミュレータによる)、腹部エコー検査など、日頃体験することができない医師の仕事を体験し、参加した高校生は、医学部進学、医師になることへの夢をふくらませていました。

平成25年度も開催予定ですので、多くの高校生の参加をお待ちしております。

開催の詳細が決まりましたら「やまぐちドクターネット(P8参照)」にも案内を掲載しますので御覧ください。



(採血シミュレーション体験)



(気管挿入シミュレーション体験)



(気分はブラックジャック)



(血圧測定体験)

Ⅲ 県からのお知らせ

◆ 「やまぐちドクターネット」を御覧ください！ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

山口県医師確保総合情報インターネットサイト『やまぐちドクターネット』では、県の医師確保対策をはじめ、地域医療に関するトピックスや県内医療機関の情報を掲載しています。

このサイト上で会員登録をいただいた方には、現場で活躍する女性医師や研修医の方々のエッセイ等を紹介するメールマガジン「やまぐちドクターネット通信」を隔月配信しています。

本誌のバックナンバーも掲載しておりますので、是非一度御覧ください。

⇒ <http://www.y-doctor.med.yamaguchi-u.ac.jp/>



◆ 山口県の医師確保施策の紹介 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

山口県では、県内の医療を担う医師を養成するため、自治医科大学での医師養成制度と4種類の医師修学資金制度を設けています。

■自治医科大学について

自治医科大学は、へき地等における医療の確保向上等を図るため、昭和47年に全国の都道府県が共同で設立した地域医療を支える医師（主として総合医）を養成する医科大学です。

山口県からは、毎年2～3名が入学しています。山口県出身の卒業医師はこれまで69名おり、その多くが現在も山口県の地域医療の第一線で活躍しています。

<修学資金貸与と返還免除>

○修学資金貸与 入学金・授業料等の大学修学に要する経費は、入学者全員に修学資金として貸与されます。 (学業準備の支援を目的として、新入生全員に対し入学後に40万円を貸与)
○返還免除 卒業後、山口県知事指定のへき地診療所等に医師として勤務した期間が、修学資金の貸与を受けた期間の1.5倍相当期間に達した場合は修学資金全額の返還が免除されます。

<入試情報>

○第一次試験（学力試験・面接試験） 期日：毎年1月下旬（学力試験の翌日面接試験） 場所：山口県庁 科目：数学・理科・外国語	○第二次試験（小論文・面接試験） 期日：毎年2月上旬 場所：自治医科大学（栃木県下野市）
--	--

■山口県医師修学資金制度について

<<医学部入学後に募集する修学資金制度>> ★募集期間：平成25年3月25日(月)～5月24日(金)

貸付の種類	全国枠（特定診療科枠）	緊急対策枠（外科枠）
募集人数	5人	5人
貸付額	月額15万円	月額15万円
対象者 アイウを全て 満たす 者	ア (次の何れかに該当) ○山口大学医学部に在籍する学生 ○全国の大学医学部に在籍し、山口県内の高校を卒業した学生	
	イ 1年生～6年生	5年生～6年生
	ウ 大学卒業後、山口県内の公的医療機関等において、 <u>小児科・産婦人科（産科）・麻酔科・救急科</u> の医師として勤務しようとする学生	大学卒業後、山口県内の公的医療機関等において、 <u>外科</u> の医師として勤務しようとする学生
返還免除要件	大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、臨床研修を修了した後、貸付期間の2倍に相当する期間に達するまでの間に、知事が指定する県内の公的医療機関等において医師として業務に従事した期間が、通算して、貸付期間の1.5倍に相当する期間に達した場合	
	小児科・産婦人科（産科）・麻酔科・救急科の医師として上記要件を満たした場合	外科の医師として上記要件を満たした場合

《特定の入学枠と連動した修学資金制度》

貸付の種類	地域医療再生枠	緊急医師確保対策枠
対象人数	10人（山口大学9名、鳥取大学1名）	5人
貸付額	月額15万円	月額20万円
対象者	山口大学医学部医学科推薦入試「地域医療再生枠（山口県枠）」及び鳥取大学医学部医学科一般入試「地域枠（山口県枠）」に合格した者全員	山口大学医学部医学科推薦入試「緊急医師確保対策枠」に合格した者全員
返還免除要件	大学を卒業した日から2年以内に医師免許を取得し、臨床研修を修了した後、貸付期間の2倍に相当する期間（12年）を経過するまでの間に、知事が指定する県内の公的医療機関等において医師として業務に従事した期間が、通算して、貸付期間の1.5倍に相当する期間（9年）に達した場合	
	貸付期間の1.5倍に相当する期間（9年）のうち4年間は、過疎地域の病院で勤務することが必要	

「山口県地域医療の風だより」の継続発送を希望される方へ

継続発送申込書

山口県健康福祉部地域医療推進室 行（FAX 083-933-2939）

この申込書に必要事項を記入して、山口県健康福祉部地域医療推進室あてにFAX(083-933-2939)をお願いします。

※ FAXの際は、この面をそのまま送信していただいて結構です。

※ Eメールでの申込みは、件名を「山口県地域医療の風便り継続発送希望（医師確保対策班）」とし、申込者の氏名・年齢・住所（送付先）・郵便番号を記載して、地域医療推進室のメールアドレスに送信してください。

メールアドレス：a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

氏名	(歳)
住所 (送付先)	(〒 —)



発行 山口県健康福祉部 地域医療推進室 医師確保対策班

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1

TEL 083-933-2937 FAX 083-933-2939

E-mail a151001@pref.yamaguchi.lg.jp

URL <http://www/pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a151001/index/>